

令和元年度 第1回 二宮町環境審議会会議録

日 時：令和元年10月17日（木） 午後1時30分～午後4時30分

場 所：二宮町役場 2階第1会議室

出席者：室田会長 / 品川副会長 / 亀井委員 / 渡辺委員 / 片岡委員 / 小林委員 /
土谷委員 / 和田委員 / 坂本委員

事務局：椎野都市部長 / 和田生活環境課長 / 山口環境政策班長 / 宇山主事

1. 開会

2. あいさつ

会 長：本年度の第1回の会議ということで、今年もよろしくお願ひいたします。

本会議は様々な見地からご意見いただくための場ですので、皆様にはご遠慮なく
発言していただければと思います。

3. 議題

(1) 二宮町第2次環境基本計画中期実施計画（平成30年度）の進捗状況等

『資料1：中期実施計画事業計画（平成30年度）の進捗状況について（案）』

『参考1：中期実施計画（平成30年度）の進捗状況に対する委員意見一覧』

『参考2：中期実施計画（平成30年度）の進捗状況に対する委員意見一覧（その他意見）』

について事務局より説明。

【審議結果】

・『資料1』の「VI 平成30年度進捗状況に対する二宮町環境審議会の意見」にとりまとめる意見については、『参考1』の「事務局案」において、「◎（全体意見）」及び「○（採用意見）」とした意見を採用するとともに、「△（審議会での審議が必要）」とした意見及び本会議で新たに出された意見は、以下のとおり、とりまとめ採用する。

また、「中期実施計画」の評価として、「前期実施計画」期間との進捗率対比等について整理する。

- ・「1-2-⑥」：評価方法について、参加人数や蛍の頭数等の数値による評価ではなく、内容重視型で評価するべきであるという意見として統合。
- ・「1-3-⑤」：評価方法について、葛川の美化という内容に沿ったものに見直しするべきという意見として統合。
- ・「1-5-①」：事業内容について、講座毎の評価が見え難い点を解消し、より多く参加してもらえる取組みを検討するべきという意見として統合。
- ・「2-1-①」：事業内容について、新たな取組みを検討すべきという意見として統合。

- ・「4-3-④」：事業内容について、「二宮町第2次環境基本計画後期実施計画（以下「後期実施計画」）」で各基本目標に適した内容の事業に分割するという形で対応済みのため、意見から除く。
- ・「全体」：事業内容について、環境教育の手法の一つにコミュニティースクールを取り入れるべきという意見として採用。

【質問・意見等】

委員：「1-2-⑥：二宮町せせらぎ公園におけるホタル観賞会」については、目標値であるホタルの頭数が気候による水環境の変化の影響を受け、達成が困難となっていることから、ホタル生息の維持への努力について評価した方がよいのではないかと。例えば、事業内容を小学校と連携し、子供たちにホタルの幼虫の放流を行ってもらう等に変更し、名称も事業内容と合わせたものに見直すべきではないかと。

事務局：目標値については、「後期実施計画」の策定時に評価方法の見直しを行い、達成状況と事業内容のどちらを重視するのかについて事業毎に設定しましたので、指標の変更をせずとも事業内容を重視して評価することで評価に反映できる形となっております。

事業内容や事業名称の変更については、「後期実施計画」が昨年度に策定したばかりということもありますので、次の見直しのタイミングである「第3次環境基本計画」の策定にあたり、検討させていただければと思います。一方、各年度の事業計画については、各年度で設定できる詳細な部分にあたりますので、ご意見としてまとめさせていただきます。

委員：「1-3-⑤：葛川美化推進事業」については、葛川清掃のごみの回収量が目標値を達成できなかったことで評価が下がっているが、葛川のごみ自体が減っているのならば、目標値を達成することが困難な設定になっているのではないかと。また、清掃活動の範囲やごみの投棄が多い場所についても教えてほしい。

事務局：葛川の清掃範囲は、町内におけるほぼ全域となっております。葛川は中井町、二宮町、大磯町に跨る2級河川ですが、全長としては短めで、湧水地である上流域の中井町における区間は短く、河川沿いの投棄しやすい場所も比較的少ないことから、中流域である二宮町の区間において、投棄されたごみの量が減ってきているということであれば河川の浄化が進んだ結果と言えるのではないかと考えられます。一方、ごみの回収量を目標値とすることの是非については、以前から審議会でご意見をいただいておりますので、「後期実施計画」の策定にあたり、目標値を葛川における水生生物の生息数に変更させていただきました。

なお、清掃活動の範囲中、ごみの投棄が多い場所については、やはり人の多く通る橋や川沿いの道路付近が多く、捨てやすい場所のようです。

委員：評価については、回収量が減っていることをプラスに捉えてもよいと思う。

海川で回収されるごみとしてのペットボトルについては、ポイ捨てだけでなく、自動販売機に併設して設置された回収ボックス等から風雨によって飛散し、意図せず河川に流入していることも問題となっているので、ごみの散乱を防止する取組みについても考える必要があると思う。

委員：「1-5-①：自然環境を知るための講座開催」については、目標値である3講座40人を達成しているがそのうちの1講座である「子どもチャレンジ教室」の参加人数が6人となっている。全体評価であれば達成しているが講座によって参加者に偏りが発生している点はどう考えているのか。また、講座数と参加人数が増加した要因はあるのか。

事務局：講座による環境教育については、本事業における講座が、外部の団体の協力のもと、実施している講座であることから町による調整ができず、結果として実績値が伸び悩んでいたものです。

また、余裕を持ったカリキュラムとなったことから、空いた時間で塾や習い事を行う子供達が増えているため、休日や夏休みに開催する町のイベント等のニーズが減ってきている現状です。現状を踏まえ、講座の開催時期や目的等を見直さなくてはいけないという認識はありますので、内容を調整することのできる町が開催する講座については、参加しやすさや環境視点での自然との触れ合い方を中心に今までと違う形で改革していきたいと考えております。

委員：他自治体で児童向けの夏休み環境講座を開催した際、地域のバックアップのあった自治体については参加者が多かった。二宮町でも同様に地区等と連携して実施してはどうか。また、児童の保護者を巻き込むことで相乗効果が期待できると思う。

委員：地域再生の手法の1つとして、地域と連携した学習の場の検討を進めているが、環境学習の場として、コミュニティースクールを活用してはどうか。また、地域との連携役として、現状ではうまく機能していないように感じる環境推進員に協力を得るべきではないか。

事務局：「後期実施計画」の策定にあたり、「中期実施計画」においては、「推進方策」の配下の事業として位置付けていた環境教育に関する事業を3つの基本目標それぞれに分割しましたので、コミュニティースクールとの連携は、手法に関する意見としてまとめさせていただきます。

なお、環境推進員については、地区長に町から様々なことをお願いしている中で負担をかけ過ぎないようにするため、環境推進に特化して設置させていただいている謂わばパイプ役なので、各地区の役員会等で町からのお願いや連絡事項をお話いただく機会に、少なくとも組長クラスの方に対しては周知が行き渡ると想定しています。また、組長は毎年変わるので、周知を継続的に実施することで、ゆくゆくは

自治会に加入している全ての方に浸透していくのではないかと考えております。本日のご意見を受けて、環境推進員には地区長との連携を強めるよう改めてお願いさせていただくとともに、地区長の皆さまにも地環境推進員連絡を取り合うようお願いさせていただきます。

委員：「2-1-①：ごみの減量化推進事業」については、水きりネットの普及のため、水切りネットをスーパーでレジ袋の代用として配布する等の新たな仕組みが必要ではないか。また、水切りネットを設置する流し台の排水溝の形状が変わってきていることから、従来の水きりネットが使えないといっている人もいるため、今後も水分もうひと絞り運動を推進するのであれば、方策を新たに検討する必要がある。

事務局：水きりネットの代用使用については、水きりネットの材質がプラスチック製であるため、プラごみ削減に逆行することに加えて、レジ袋の代用品として耐久性や大きさが課題になることが想定され、実施主体も町ではないことから実効性が担保できないため、意見とりまとめにあたっての参考意見の一つとして整理させていただきます。

なお、「水分もうひと絞り運動」に代わる水分率の削減方策としては、新たに「生ごみ濡らさない（乾かす）運動」の啓発を実施することについても検討しております。

委員：ごみ減量化の取組みについては、事業内容が周知に偏り過ぎているように感じる。「2-1-③：マイバック・マイボトル等の利用促進」において、ペットボトルを削減する取組みとして、葉山町が取組んでいる給水スポット設置や給水スポットのマップ化アプリの活用等、ペットボトルの削減につながる取組みを商店街等と連携して実施してはどうか。そのほかに、例えば、家庭に余っているマイバックを商店街内でシェア利用することや紙袋化に取組むこと等が考えられる。

事務局：給水スポットについては、過去に町でも公共施設の各所に設置していたが、衛生面や機器のフロン使用等の関係で更新されなくなった経過があるため、新たに設置することは難しいと思われまます。

マイバックについては、商工会がオリジナルマイバックの製作を検討しているという情報もありますので、シェアバックの事例についても紹介させていただきたいと思ひます。

委員：紙袋化については、各商店も意識しており、検討していると聞いている。

また、レジ袋の削減については、使用済みのレジ袋が、ごみを排出する際の袋として活用されている側面もあるので、ごみ袋の数を減らす一案として、空き缶やペットボトルを排出する際には、潰して出すこと等も案内してはどうか。

事務局：空き缶については、処理施設での処理工程上の都合で潰さないで出すようご案内しているところですが、ペットボトルについては、潰して袋に入れることで減容化

が図られますので、ごみ袋の削減に効果があると思います。

委員：「2-2-②：生ごみ処理機の導入促進」については、順調に促進されていると思うが、事業本来の主旨であるリサイクルチェーン（資源循環）については、生ごみ処理機から生成された堆肥の活用ができていないことから、活用先を作ることを検討する必要があるのではないか。また、生成された堆肥が活用し難いのはどのような理由によるものか。

事務局：生ごみ処理機から生成される堆肥については、一般的に家庭からの食品残渣は塩分が高く、質も安定的でないことから、生成された堆肥の成分も安定しないため、安定的に肥料として利用するのは難しいようです。

「後期実施計画」においても、本事業は継続しておりますが、現在、売れ筋のほとんどが昨年度から積極的にPRを始めた「消滅型生ごみ処理機（キエーロ）」となっており、消滅型であることが購入者のニーズに合致したものと考えられます。一方で、消滅型の生ごみ処理機では、堆肥の生成による循環が図られないため、リサイクルチェーンには適しておらず、生ごみの減量化には効果があるものの、事業本来の主旨からは遠のいているとも言えます。

委員：生ごみ処理機から生成された堆肥が成分的に利用し難いということであれば、成分を調整することで活用ができるのではないか。

会長：植物が育つには、炭素と窒素のバランスが必要であり、炭素が多い生ごみ堆肥については窒素を添加することで肥料としての利用も可能とは思いますが、市場価値のある堆肥を作るとなると相応のコストが掛かるとともに、そもそも添加する窒素を畑に撒くほうが容易とも言えるので成分調整の有用性は低いとも考えられる。

委員：「4-3-④：高齢者の協力により、町の歴史や生活の変化を語り継ぐ機会づくり」については、他事業と取組み内容が重なっており、事業内容に応じた講座を開催すべきであるとの意見だが、「後期実施計画」においてすでに各基本目標の配下に分割がなされ、事業内容も包括的な内容でなく、各目標に即したのみに見直されているので、あえて今回の意見にまとめなくてもよいと思う。

事務局：意見を受けて審議会からの意見から除させていただきます。

会長：本日いただいた意見を取りまとめ、事務局で資料を修正いただき、私と調整させていただいたものを審議会の意見とすることでよろしいか。

委員：問題ありませんので、対応をお願いします。

事務局：その通り対応させていただきます。

（2）二宮町第2次環境基本計画後期実施計画（令和元年度）の事業計画等

『資料2：後期実施計画事業計画の修正（案）』について事務局より説明。

【審議結果】

・「資料2」については、数値指標の見直しについてのみ承認することとし、目標値については令和元年度の実績をもって再検討することを条件に暫定値として決定。

【質問・意見等】

委員：現状、設定の根拠となる実績がまったくない状況であるならば、今回は暫定的な設定とし、今年度の実績を勘案して、目標値を再度検討した方がよいのではないか。

事務局：11月17日に開催が予定されている「湘南にのみやふるさとまつり」において、回収する「マイエコ10宣言」の結果をもとに目標値の案を作成し、次回会議でご意見をいただければと思います。

委員：「マイエコ10宣言」の項目について、再生可能エネルギーの促進を図る観点から「電力会社（発電方法）の選択」に関する項目を追加することはできないか。

事務局：「マイエコ10宣言」については、県が作成したものをそのまま活用させていただくことで、進捗状況把握に要する経費と労力の効率化を図る予定でおりますので、項目の追加は難しいですが、別に町で作成している再生可能エネルギーの利用促進に関するチラシの中で、化石燃料由来の発電が温暖化に与える影響を考え、電力会社を選択することについて周知は行っております。

（3）その他

事務局：今回は、「中期実施計画の進捗状況に対する委員意見への町の対応」について報告させていただく予定です。開催日程については、来年2月上旬から中旬を予定しておりますが都合のよい日程等ありますでしょうか。

会長：委員の皆様の予定を確認すると2月中の開催は困難な模様です。3月中の開催で再調整するのがよいかと思えます。

事務局：次回会議については、3月16日以降で再調整させていただきます。

4. 閉会

事務局：これをもちまして、第1回環境審議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。